

# 観光協会「アユやな」全額補助

## 「伝統守る」と歓迎

### 延岡市当初予算案

宮日

### 収支公開求める声も

3000年以上続く「アユやな」を守るため、延岡市は2012年度の当初予算案に、延岡観光協会が運営するやな架設費1700万円の全額補助を盛り込んだ。やな事業で2年連続の赤字に陥った協会への緊急支援も、補正予算案に組み込む方針。市民の間には歓迎する声がある一方、「公金を投入するのなら、やな事業の損益の公開が必要」と説明を求める意見もあり、両予算案が提出される28日開会の3月市議会でも議論を呼びそうだ。

アユやなをめぐっては、漁やなを守るには市が100%た」と説明する。

獲量や観光客の低迷で民間業者の撤退が相次いだことから、市は09年「これからの鮎やなを考える会」を設立。10年度から、やな1カ所につき架設費100万円の補助を決めた。

それでも名乗りを上げる業者がなかったため同協会が参入。しかし、10、11年度とも「1千万円は下らない」（同協会）赤字となったため、考

える会は12年1月、存続のための緊急支援を市に提言していた。

全額補助を打ち出した理由について、市商業観光課は「2年間の実績を見て、伝統



大瀬川に全長約120mにわたって美しい弧を描くアユやな。存続のため、2012年度予算に架設費の全額補助が盛り込まれた。11年10月、延岡市大貫町・大瀬川

は未定とし、考える

会が提言した緊急支援

については「補正予算

案で出した

い」として

いる。

今回の方

針につい

て、市議の

一人は「1

00年先を

見据えてこ

こで絶やす

わけにはい

かない」と評価する。

一方で「事業の収支について説明がないと市民の理解は得られない」と説明不足を指摘する声も少なくない。以前やなを架設していた業者からは、「協会だけ厚遇されて不公平」と憤る声も聞かされてくる。

延岡観光協会の田丸眞会長は「伝統やなを残すことに対して、市も責任を持ってもらうという事で大変ありがたい」と受け止める。さらに「支援を受けるなら収支の公開も必要だろう。求められはいつでも説明する準備はできている」と話している。